

## 40 歳からの介護知識 4

# 介護サービスって、何？

40 歳以上の国民みんなが加入している「介護保険」ですが、実際にどのようなサービスが提供されているのか、ご存知ですか？

たとえば日帰りの介護施設の一日を紹介すると、

朝夕の自宅送迎から、健康チェック、入浴介助、食事の提供、介助、さまざまなケアはもちろん、脳を使うレクリエーション、身体を使うレクリエーションなど、自立に向けた支援を行っています。

保険でカバーされるサポートを知ること、適切なライフデザインにつなげていきましょう。



## 【1】ヘルパーの仕事(1)「身体介助」

歳を重ねて、身体機能が低下してくると、

お風呂に入ることも、トイレで用を足すことも、立ち上がって部屋を移動することさえ困難です。

そこでヘルパーが、利用者(介護を必要とする人)の身体に直接触れて、

さまざまな動作をサポートするのが「身体介助」です。

基本的には、その人の残存能力を最大限にいかし、少し手を貸してくれるというイメージです。

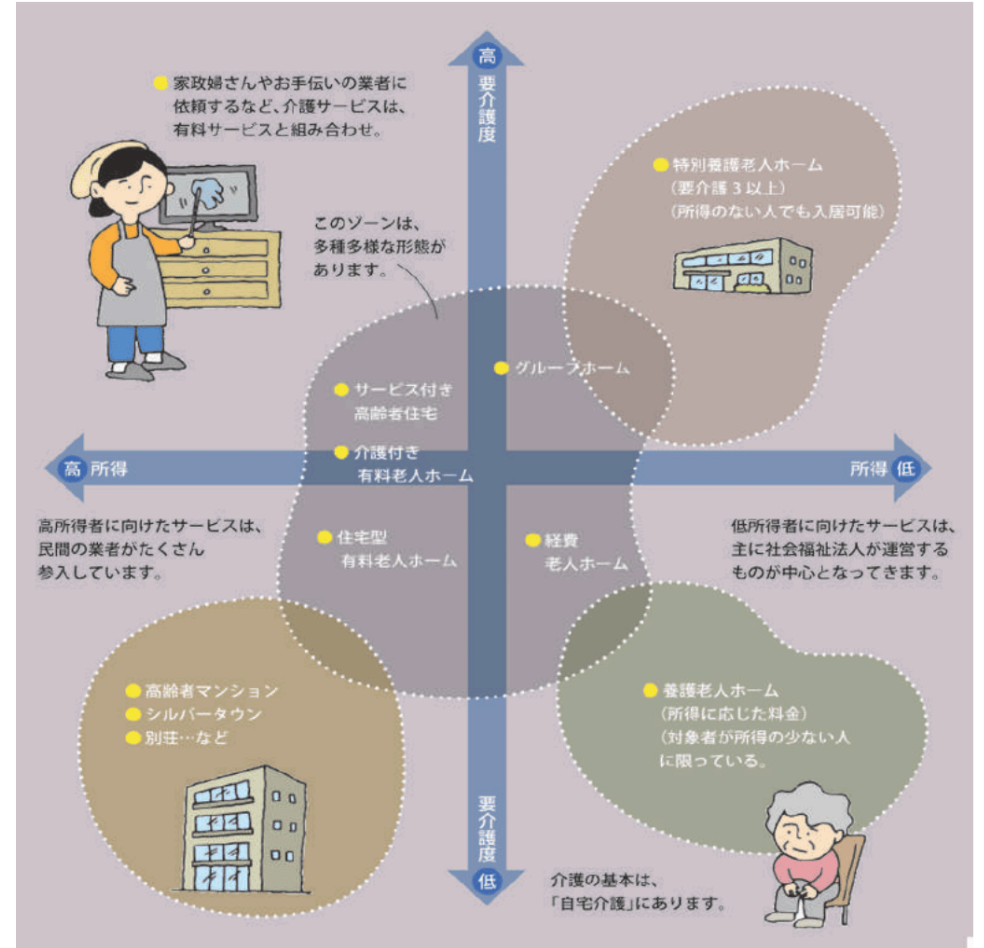
具体的には、食事や服薬、着替え、入浴、清拭、排せつ、洗面、身だしなみ、体位の変換など、

利用者の「動き」をサポートするサービスです。



## 【2】ヘルパーの仕事(2)「生活援助」

ごはんを作ったり、掃除をしたり、日常のいとなみは、思った以上に身体を使います。これが困難になってくると、人として最低限のいとなみさえできなくなります。そこでヘルパーは、炊事・洗濯などの、「日常的な」暮らしのいとなみをお手伝いします。あえて「日常的」と強調しているのは、「非日常的のいとなみ」は、介護保険が適用されないからです。たとえば年末の大掃除や、お庭の手入れなど、特別な家事はサポートされないのが注意点です。炊事・洗濯・掃除・買い物・ベッドメイクや衣類の整理など、利用者の「日常のいとなみ」をサポートするサービスです。



## 【3】施設介護のいろいろ。

介護の基本は「自宅介護」ですが、「介護施設」で介護を受けることもできます。介護施設にはさまざまな種類がありますが、「入居する」タイプと、「日帰りで利用する」タイプ、「必要時にお泊まりできる」タイプ、また要介護度の高い人に向けたもの、低い人に向けたもの、経済的にゆとりのある人と、そうでない人…など、あらゆる人の利用を想定した種類があります。ざっくりと経済的にゆとりがある人を対象にしたものは、民間企業の参入が多くて、ゆとりがない人に向けては、公的なサービスや、社会福祉法人が提供するものなどがあります。